

【活用にあたって】

聖徳太子が政治を行った頃から聖武天皇が国を治めた頃までの学習で身に付ける事項は、次の三つです。

①大陸文化の摂取、②大化の改新、③大仏造営

①は、聖徳太子が小野妹子らを遣隋使として隋に派遣し、政治の仕組みなどの大陸文化を摂取しようとしたことです。②は、中大兄皇子や中臣鎌足により政治の改革が行われたこと、天皇中心の新しい国づくりをめざしたこと。③は聖武天皇の発案の下、国家的な大事業として東大寺の大仏がつくられ、天皇中心の政治が広く全国に及んだこと、鑑真が来日し仏教の発展に大きな働きをしたことです。

これらのことを手掛かりにして、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解します。

解答例

問1：遣唐使

問2：イ

問3：天皇中心の政治の仕組みが整ってきたが、人々は伝染病に苦しんだり、貴族の反乱が起きたりした。聖武天皇は仏教の力でなんとか国を安定させようと考えた。全国に国分寺、都には国分寺の中心となる東大寺を建て、大仏をつくった。仏教の教えを正しく教え広めてくれる優れた僧を中国に求めた。